

第 20 回山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	高齢者の思いに寄り添うケア
副 題	山梨県高齢者権利擁護等推進部会の『高齢者の思いに寄り添うケアを推進するための手引き』を用いて当施設のケアを振り返る

フリガナ	ケアホームハナビシ
施 設 名	ケアホーム花菱
フリガナ	カイゴフクシシ タナカ オサム
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 田中 理
フリガナ	タカイシ コウイチロウ シミズ タカヒト イトウ アキコ
共同研究者	高石光一郎 清水貴人 伊藤颯子

<はじめに>

当施設では、『人間としての尊厳を守る』を施設理念の第一としている。尊厳を守り、利用者様の思いに寄り添うより良いケアを提供していくため、職員個人だけではなく、施設としてどのようなケアを行っているか現状を把握する必要があると考えた。そこで、山梨県高齢者権利擁護等推進部会の『高齢者の思いに寄り添うケアを推進するための手引き』を用い、権利擁護とはどのようなことなのかを改めて学ぶと共に、不適切なケアを浮き彫りにすることで今後のケアの在り方を考えていきたいと思い、この取り組みを行った。その結果をここに報告する。

<方法>

アンケート実施前に、権利擁護について施設内勉強会を開催し、同時にアンケートの趣旨と目的を説明。アンケートは記述部分が多くを占めるため、記名式として、意図の汲み取りに齟齬が生じないように必要部分は個別に聞き取りを行った。

食事・排泄・入浴・移動・接遇の5場面で、現状どのようなケアが行われているか、思いに寄り添うケアとはどのようなものだと思うか、それらの間に生じるギャップの原因や背景は何だと考えられるかを回答してもらい、それを元に職員間で話し合いを行った。

<内容>

5場面に分けてのアンケートであったが、集計・分析した結果、適切と思うケアができない背景要因として挙げられた意見のほとんどが共通していることが分かった。最も多かったものが『職員の人員や時間が不足しているから』であり、全体の76%に及んでいる。次いで多く聞かれたのが『効率を重視してしまうから』『業務優先になってしまっているか

ら』などで、こちらもそれぞれ半数を超えていた。『職員の都合や目線で仕事をしている』や『自分だったらどう思うかと考える姿勢がない』などの意見も全体の20%程度から出たが、それらの多くには「時間や人員に余裕がないから」といった理由付けがされていた。

適切なケアを行うため何をしていくべきかを職員間で話し合った中でも、ミーティングによる業務の効率化や情報の共有化、定期的な勉強会による知識・技術の向上など、出された意見のほとんどが職員の環境改善を考えたものだった。

<まとめ>

自施設を見直していくために行ったアンケートであったが、その回答の半数以上が時間や人員といった環境に関するものだった。そのことから、当施設が職員目線で業務中心にケアを行っていること、それを環境を理由に正当化している現状があることが分かった。

職員側に余裕がなければ利用者様の人権や尊厳を守ることは難しいという、その考えが不適切なケアにつながる。利用者様個々と向き合い、その方がどう思っているのか、行動や発言の理由は何なのかを知ろうとしながら接していき、自分だったらどう感じるかを考え、自らのケアに対して「これでいいのか」と疑問を持ち振り返ることを積み重ねていくことで、適切なケアに近付いていけるのだと思う。

人間としての尊厳を守り、思いに寄り添うケアを行うため、日々の業務の中でも職員同士で疑問を持ち合い投げかけ合っていくことが必要だと考える。施設内研修などを通し権利擁護について学び直していきながら、職員ではなく利用者様の目線に立ったケアを行える施設になるよう努めていきたい。